

市町村名		宜野座村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1- 景観維持緑化振興事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ	
	担当部課名	産業振興課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度		観光客の受け入れ体制の整備
				沖縄振興基本方針該当箇所	-10-(1)		
事業内容	村内に美しい景観を形成するため、村の緑化振興会が中心となって幹線道路の植樹帯や公園等や花壇等の美化作業を行っている。又、植樹帯へ植え付ける花木の育苗も緑化振興会で行っており、育苗するにあたり土作りが重要である。土作りを人力作業で行っており、ミニコンボを導入し、土作りや植樹帯整備に活用することでさらなる緑化・美化の推進を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,171	4,200			
		(b)予算現額	2,704	2,609			
		(c)増減額(b-a)	1,467	1,591			
		(d)前年度繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	2,704	2,609			
	B.執行済額		2,704	2,609			
	うち交付金充当額		2,162	2,087			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		計画とおりの執行となりました。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	道路植樹帯の美化作業4回 国道329沿い(宜野座村役場周辺約2km) 花プランターの設置に伴う土づくり:1400個分 (観光月間:400個分) (阪神キャンプ:700個分) (産業まつり:300個分)	目標	(国道植樹帯作業3回) (村まつり400個) (阪神キャンプ700個) (産業まつり300個)	(国道植樹帯作業4回) (ダムまつり400個) (阪神キャンプ700個) (産業まつり300個)	()	()	
		実績	国道植樹帯作業7回 村まつり800個 阪神キャンプ800個 産業まつり400個	国道植樹帯作業4回 ダムまつり600個 阪神キャンプ700個 産業まつり300個			
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	国道329沿い(宜野座村役場周辺約2km)の道路植樹帯の美化作業計画どおり4回行った。イベント等の花プランター設置の為、導入したミニコンボを利用し土作りを行い、無償配布苗を活用しプランター1600鉢を設置した。導入したミニコンボを利用することにより土作りの作業効率が上がった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(平成23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(平成33年度)
	道路植樹帯の美化作業4回 国道329沿い(宜野座村役場周辺約2km) 花プランターの設置に伴う土づくり:1400個分 (観光月間:400個分) (阪神キャンプ:700個分) (産業まつり:300個分)	目標		(国道植樹帯作業3回) (村まつり400個) (阪神キャンプ700個) (産業まつり300個)	(国道植樹帯作業4回) (ダムまつり400個) (阪神キャンプ700個) (産業まつり300個)	()	()
		実績		国道植樹帯作業7回 村まつり800個 阪神キャンプ800個 産業まつり400個	国道植樹帯作業4回 ダムまつり600個 阪神キャンプ700個 産業まつり300個		
			目標		()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	国道329沿い(宜野座村役場周辺約2km)の道路植樹帯の美化作業計画どおり4回行った。イベント等の花作りのため、導入したミニコンボを利用することにより土作りの作業効率が上がり、村のイベントで利用する花の苗作りがスムーズにできた。今後、土作りをはじめ美化作業にミニコンボを活用し美化作業に取り組み地域活性化に繋げていきたい。					

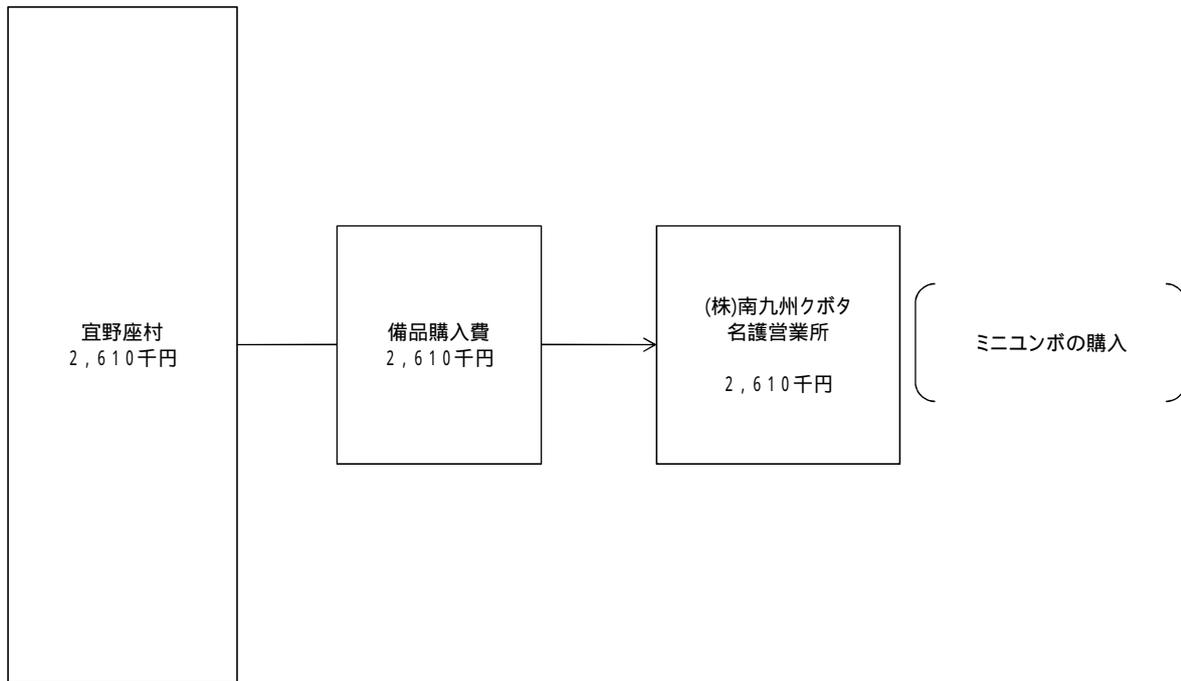
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>村内に美しい景観を形成するため、村の緑化振興会が中心となって幹線道路の植樹帯や公園等や花壇等の美化作業を行っており、花木の育苗も緑化振興会で行っている。育苗するにあたり土作り等を人力作業で行っていたが、ミニコンボを導入し、土作り等の作業に活用することでさらなる緑化・美化の推進を図られているが、地域住人の美化活動への意識の拡大が今後の課題である。</p>	<p>現在国道329沿い(宜野座村役場周辺2km)の道路植樹帯の美化作業を緑化振興会を中心に実施しており、今後地域住民と連携し美化活動を推進していき、地域活性化を図る。</p>

今後の取り組み方針

美しい景観を形成、観光振興、地域活性化を図るため、緑化・美化作業が活発化するようミニコンボを積極的に活用できるようにする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,610	2,610	2,087	523	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>備品購入は、指名競争入札による結果であり、妥当であったと考えられる。 予算規模も、三社より見積を徴収し決定したので適正であると考えられる。 事業を実施するうえで、必要不可欠な備品購入となっている。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

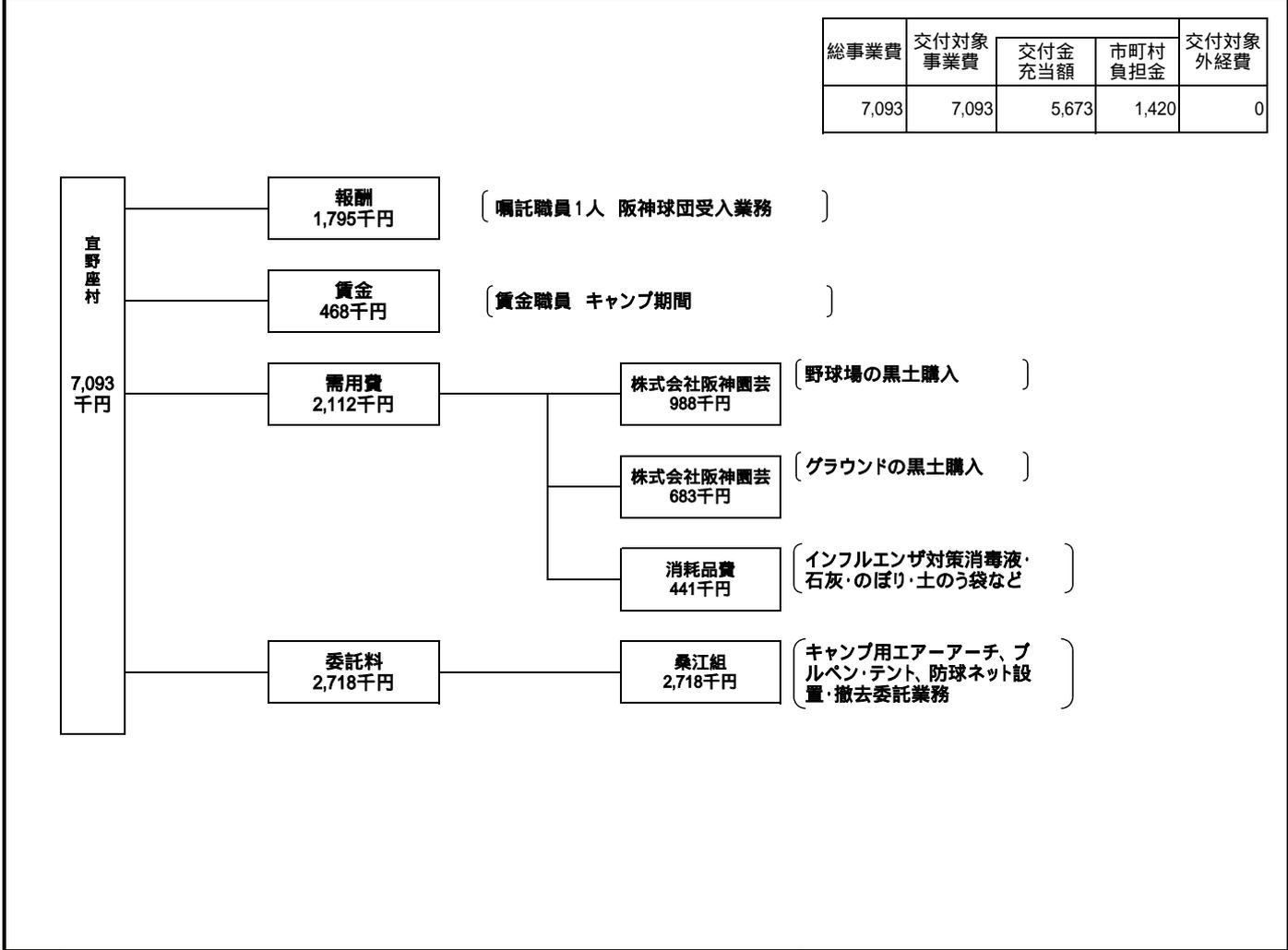
市町村名	宜野座村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	阪神タイガース春季キャンプ受入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-7	
担当部課名	観光商工課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	世界水準の観光リゾート地の形成 -1-(2)	
事業内容	阪神春季キャンプの受入体制の強化を図り、キャンプ中はもちろん年間を通して誘客出来る観光資源として開拓していく。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,652	7,859			
		(b) 予算現額	6,388	7,154			
		(c) 増減額(b-a)	2,264	705			
		(d) 前年度繰越額	-	-			
	A. 計(b+d)		6,388	7,154			
	B. 執行済額		6,388	7,093			
	うち交付金充当額		5,109	5,673			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（%）(B/A)		100.0%	99.1%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・野球場仮設ブルベン及び防球ネット設置、エアアーチ設置、野球場・総合グラウンド黒土搬入。キャンプ来場者（70,000人）	目標	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 来場者（70,000人）	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入			
実績		仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 42㎡ 来場者 67,300人	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 42㎡				
達成状況説明	春季キャンプ中、選手が快適に練習ができるよう、球場内外の整備、ブルベンの整備など、選手及び見学者が快適な環境施設を整備することにより、観光資源の向上ができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	・野球場仮設ブルベン及び防球ネット設置、エアアーチ設置、野球場・総合グラウンド黒土搬入。キャンプ来場者（70,000人）	目標		仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 来場者（70,000人）	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 黒土搬入 来場者（70,000人）		
		実績		仮設ブルベン設置 防球ネット設置 エアアーチ設置 黒土搬入 42㎡ 来場者 67,300人	仮設ブルベン設置 防球ネット設置 黒土搬入 42㎡ 来場者 63,700人		
	[参考指標]	目標					
		実績					
進捗状況説明	キャンプ環境、見学者の誘客と安全を図るため、黒土入替え、見学者を守る防球ネット、歓迎のぼりを設置した。今回のキャンプは、雨が多かったことや祝日の練習試合が雨で中止になったことにより、見学者数が昨年より減となった。さらなる誘客を図るため、球団と調整を行い、イベントの充実を行っていく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・観光客へのアピール不足なので、各観光関連機関と連携を図る必要がある。	・選手の宿泊施設との連携及びコンベンションビューローとの調整検討。 ・イベントの告知の方法など、県内外のマスコミへ取材依頼の検討。 ・観光推進協議会・商工会との連携で新たな効果を生み出す。 ・協会会員と阪神タイガースとの新たな交流会の検討。

今後の取り組み方針

・毎年、新たなキャンプ情報の提供や阪神協会会員確保に向けて取り組む必要がある。
 ・施設の維持管理、観光推進協議会及び宜野座村商工会との連携をしながら年間を通じた誘客を図り観光振興、産業振興につなげ新たな波及・派生効果を狙う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検、 評価、 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により決定したため妥当であった。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宜野座村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(5)-ア	
担当部課名	社会教育課		事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	文化産業の戦略的な創出・育成 - (2)
事業内容	宜野座村文化センター「がらんホール」を中心として、「伝統芸能」「音楽コンサート」「創作演劇」「ワークショップ」など様々な芸術文化・伝統芸能公演を開催し、地域芸能のアピールと文化振興、交流事業を行う。さらに「お出かけ公演」などアウトリーチを積極的に行い、ホールだけでなく地域の各施設とも連携した事業を行い、がらんホールの宣伝告知、新たな創客を図る。また、人材育成を目的とした「子ども育成事業」を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	25,707	12,190			
		(b)予算現額	28,316	12,529			
		(c)増減額(b-a)	2,609	339			
		(d)前年度繰越額	0	0			
	A.計(b+d)		28,316	12,529			
	B.執行済額		28,316	12,529			
	うち交付金充当額		20,565	9,752			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画どおりに事業を実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	芸術文化・伝統芸能公演の開催数	目標	(4回)	(22回)			
		実績	17回	22回			
	お出かけ公演(芸術普及活動)実施数	目標	(10回)	(9回)			
		実績	11回	14回			
	子ども育成事業実施数	目標	(10回)	(9回)			
		実績	11回	14回			
	達成状況説明	芸術文化・伝統芸能公演、お出かけ公演とも予定通りの実施数を行い目標を達成した。 多数の芸術文化・伝統芸能公演やお出かけ公演を行うことによって地域の魅力や文化を多くの方にアピールできた。子ども育成事業に於いては地域外からも参加者が増え、人材育成だけでなく子ども同士の交流の場ともなった。総合的に昨年よりもここ文化センターががらんホールが文化振興、交流の場として大いに活性化してきた状況がうかがえる。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度
芸術文化・伝統芸能公演の集客数		目標		3013名	(2500)		()
		実績	3751	3940名	2233		
お出かけ公演実対象者数		目標		未設定	(800)		()
		実績	700	2565名	2151		
子ども育成事業人数		目標		未設定	(40)		()
		実績	25	40	43		
進捗状況説明		芸術文化・伝統芸能公演が予定通りの人数に達しなかったのは「沖縄芝居」で2回公演予定していたが1回となったことや「ミュージカル」公演において入場者数が少なかったからである。しかし、お出かけ公演においては大いに基準値を上回った。 多数の芸術文化・伝統芸能公演やお出かけ公演を行うことによって地域の魅力や文化を多くの方にアピールできた。子ども育成事業に於いては地域外からも参加者が増え、人材育成だけでなく子ども同士の交流の場ともなっている。					

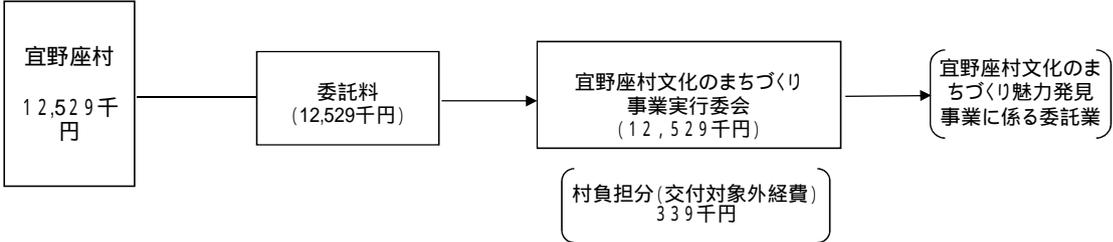
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	昨年同様事業内容によって集客に偏りがある。 集客減の事業についての留意点 偏りのないよう多様な芸術文化・伝統芸能公演を実施する。 観光客へのアピールが弱い。 本事業を観光資源とも捉え、地域に経済波及効果も及ぶよう工夫する。	文化事業は個人の嗜好が反映されるが各事業の魅力を存分にアピールして新たな創客を計り来場者増を図る。 年々演者、鑑賞者ともに減っている分野の事業もあるが集客数のみで継続するかどうかを決めるのではなくその本質を見極め必要であれば新たな工夫を加え継続を行い、必要がなければ他分野の事業に移行する必要がある。 事業一覧を分析し、未分野の芸術文化事業などを紹介する。 ホテルや観光名所にチラシなどを広告物を送付・設置依頼を行う。 公演時に観光パンフレットの配布やホームページで地域の情報をリンクして総合的に宜野座村をアピールする。

今後の取り組み方針

毎年新たな分野の芸術文化を紹介し多様な事業展開を行う。各事業においては「地域」をキーワードに、文化振興とともに地域全体が発展していく観光的側面も考慮し、観光産業ともリンクして宜野座村の魅力をアピールしていく。また今後は、芸術文化伝統芸能の鑑賞事業だけでなく、地域の人材や地域芸能を生かした創作プログラムにも着手し、宜野座村にしかできない、宜野座村にしかない、宜野座村でしか味わえない魅力あるコンテンツづくりも行っていく必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,529	12,190	9,752	2,438	339



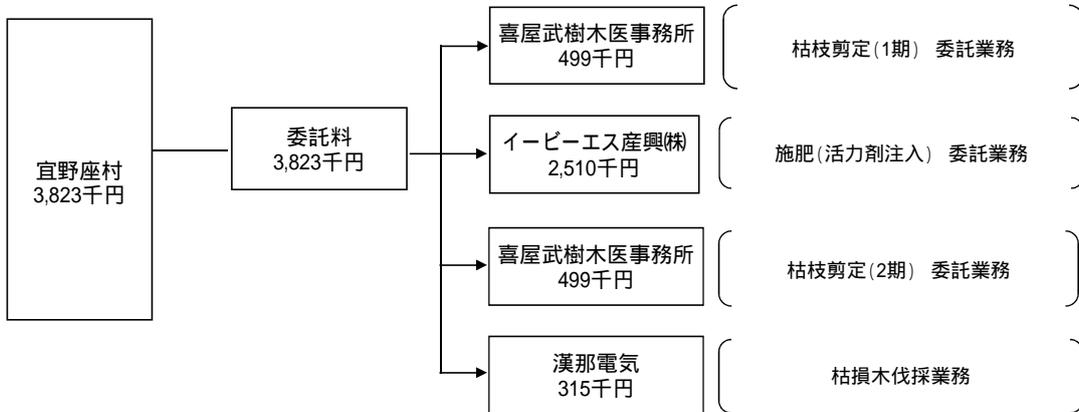
資金の流 れ、費 目・使 途の 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先である文化のまちづくり実行委員会は、村内の各種団体の関係者で構成されており、文化センター設立以来、からまんホール事業の企画を行っている。そのため、村内のニーズにあったイベント開催、地域とのつながりが非常に強く、円滑な事業が望め委託金支出先としては妥当であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	費用の支出は事業遂行のために必要な金額であり、事業終了後、決算書において村に報告と承認を受けた。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成25年度 沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1	松田の馬場及び松並木樹勢回復事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章1(5)ア		
担当部課名	宜野座村教育委員会 社会教育課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり 10(1)		
事業内容	宜野座村指定文化財(史跡)である「松田の馬場及び松並木」の樹勢回復を目的とした薬剤の注入や枯損木の撤去等を実施し、景観を維持させるとともに、松田区内の文化財と一体となった歴史的空間を創出することにより、文化財の保護や活用を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,686				
		(b)予算現額	3,825				
		(c)増減額(b-a)	139				
		(d)前年度繰越額	0				
		A.計(b+d)	3,825				
	B.執行済額		3,823				
	うち交付金充当額		3,057				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		99.9%				
予算の状況の説明		宜野座村指定文化財(史跡)である「松田の馬場及び松並木」が台風の塩害による影響で弱っていることから、樹勢回復を目的とした薬剤(活力剤)の注入を計画した。しかし、事業実施の年度に入り予算計上時よりも弱っている松が増えていた為、薬剤(活力剤)の種類を変更し、注入する松の本数を増やした。なお、景観維持および安全対策の為、予算計上時には枯れていなかった松の伐採(枯損木の撤去)を実施した事により、予算が増額となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・枯枝の剪定 ・松へ活力剤を注入 ・活力剤の効果がない枯枝の剪定 ・枯損木の撤去	目標	()	(剪定 約70本 活力剤 83本 伐採 0本)	()	()	
		実績		剪定 72本 活力剤 83本 伐採 6本			
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	宜野座村指定文化財(史跡)「松田の馬場及び松並木」の松に活力剤を注入する事で樹勢が回復し、枯枝剪定や枯損木の撤去を実施する事で景観が維持されている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・枯枝の剪定 ・松へ活力剤を注入 ・活力剤の効果がない枯枝の剪定 ・枯損木の撤去	目標	()	()	(剪定 約70本 活力剤 83本 伐採 0本)	()	()
		実績			(剪定 72本 活力剤 83本 伐採 6本)		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	本事業の実施により、宜野座村指定文化財(史跡)「松田の馬場及び松並木」の松の樹勢が回復し、景観が維持されている。今後、宜野座村立博物館が催す地域巡り等で松並木を活用し、宜野座村の観光振興に寄与していく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>宜野座村指定文化財(史跡)「松田の馬場及び松並木」の松は、造成時の植林より130年余が経過している古木である。今回、活力剤の注入によって松の樹勢は回復しているが、今後、松が樹齢を重ねる度に台風の塩害等による影響が懸念される。</p>	<p>推進上の留意点の通り、今後も台風の塩害等による松への影響が懸念されるが、毎年、松に活力剤を注入すると葉害が起こる可能性も考えられる為、継続的に松の状態を観察し、適時、適切な処置を施す必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>改善余地の検証でも挙げている通り、平成26年度以降も継続的に松の状態を観察し、適時、適切な処置を施す必要がある。また、本事業によって松の樹勢回復や景観の維持が成された為、宜野座村立博物館が催す地域巡り等で松並木を活用し、宜野座村の観光振興に寄与していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,823	3,823	3,057	766	0



資金の流れ、費目、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	樹木医の診断により処置が必要な松を対象に事業を実施した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	松の枯枝剪定については、H14より松田の馬場及び松並木の診断を行い、これまでの処置と経過を把握している樹木医と随意契約を締結した。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	松の活力剤の注入については、地方自治法施行令第167条の2、公共工事における随意契約のガイドライン中央公共工事契約制度運用連絡協議会モデル(S59 採択)、工事請負契約における随意契約方式的確な運用について(S59 採択)に基づき、沖縄県内の松の樹勢回復に実績があり、自社製品の活力剤と専用の注入器で特許を取得している業者と随意契約を締結した。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	宜野座村着地型観光誘客推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-7	
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興 -1-(1)	
事業内容	宜野座村の着地型観光推進を強化するために、本村の地域資源を活用した地域発の観光事業やPRを展開し、着地型観光商品の取組み、イベント、プロモーション事業等を観光推進協議会並びに地域企業等の連携をとり着地型観光の推進を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	21,218				
		(b)予算現額	16,350				
		(c)増減額(b-a)	4,868				
		(d)前年度繰越額	0				
		A.計(b+d)	16,350				
	B.執行済額		16,350				
	うち交付金充当額		13,080				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		宜野座村観光推進協議会が法人化されていないために車両リースが出来なかったこと等により 4,868円の減額となったが、その他は事業計画どおり実施できている。成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	観光案内所設置	目標	(-)	(1箇所)	()	()	
		実績	-	2箇所			
	体験学習PR実施(県外観光PR)	目標	(-)	(5回)	()	()	
		実績	-	3回			
	ノベルティグッズ開発(商品開発)	目標	(-)	(5種類)	()	()	
		実績	-	5種類			
	自然事業(観光体験メニュー開発)	目標	(-)	(1回)	()	()	
		実績	-	1回			
	大イベント事業(バーガーフェスタ)	目標	(-)	(1回)	()	()	
		実績	-	1回			
	文化芸能事業(フォトコンテスト及びカレンダー作成)	目標	(-)	(1回)	()	()	
実績		-	1回				
観光プロモーション事業(パンフレット作成、情報誌掲載、Web構築)	目標	(-)	(1回)	()	()		
	実績	-	1回				
達成状況説明	本村にない観光案内所を設置。また、県外への観光PR、ノベルティグッズ商品の開発、新しい体験メニューの開発、フォトコンテストによる地域資源の発掘、パンフレット作成、観光情報誌への掲載、Webによる観光PR、バーガーフェスタを実施し、県内外への本村のPR及び誘客ができた。						

成果目標 (指標) 及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値 (年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
観光案内所設置	目標		(-)	(600人)	()	()
	実績		-	1,200人		
体験学習PR実施(県外観光PR)	目標		(-)	(5回)	()	()
	実績		-	3回		
ノベルティグッズ開発(商品開発)	目標		(-)	(5種類)	()	()
	実績		-	5種類		
自然事業(観光体験メニュー開発)	目標		(-)	(60人)	()	()
	実績		-	40人		
大イベント事業(バーガーフェスタ)	目標		(-)	(2,000人)	()	()
	実績		-	5,000人		
文化芸能事業(フォトコンテスト及びカレンダー作成)	目標		(-)	(1回)	()	()
	実績		-	1回		
観光プロモーション事業(パンフレット作成、情報誌掲載、Web構築)	目標		(-)	(1回)	()	()
	実績		-	1回		
進捗状況説明	<p>本村にない観光案内所を設置することで来村する観光客に観光資源をPRし、県内外への営業やパンフレット作成・情報誌掲載・WebによりPR活動ができた。また、バーガーフェスタのイベントを開催することで誘客を図り、新しい観光メニューの開発、フォトコンテストによる地域資源を発掘したPR活動を行った。今後も観光PRを展開し本村への誘客効果を図りたい。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内所を設置し本村の観光施設・資源等への誘導は出来たが、パンフレットを増やすなど案内所の強化をしていく必要がある。 県外への営業や情報誌掲載、Web構築等により、県内外への誘客を図ることができた。今後は観光関連事業所との連携を図っていく必要がある。 バーガーフェスタを開催したが、会場には予想を超えた人の集客となり、半分以上の人がバーガーを口にすることが出来なかった。イベント会場移動の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 他観光案内所の視察を行い、案内所の改善を図っていく。 観光関連事業所との連携を図り、意見交換や情報交換を積極的に行い、観光PR活動につなげていく。 イベントの開催場所の検討をしていく。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> 観光案内所からの誘導ができるように案内所の充実を図っていく。 本村の観光関連事業所の底上げをして、観光PR活動の資質向上を図っていく。 来場者を楽しんでもらえるイベント会場地を選定し、誘客に寄与するイベントとして開催していく。 新たな観光客を誘致してリピーターへとつなげ、宜野座らしい観光地としての確立を目指していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
16,350	16,350	13,080	3,270	0

<p>宜野座村 16,350千円</p>	<p>委託料 16,350千円</p>	<p>宜野座村 観光推進協議会 16,350千円</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光案内所設置 体験学習PR実施 ノベルティグッズ商品開発 自然事業 大イベント事業 文化芸能祭事業 観光プロモーション事業
--------------------------	-------------------------	--------------------------------------	--

資金の 使途の 流れの 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> 委託事業者は、本村を特化した観光を推進する事業所となっており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。 使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時(検査)において支出等に関する書類により確認し適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	リバーパーク整備事業（無地番地調査委託事業）		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(7)		
担当部課名	企画課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	共助・共創型地域づくりの推進 -1-(1)		
事業内容	漢那福地川周辺においては、自然を活かした土地利用の推進、地域と連携した公園等の整備を推進しているが、その中心ともいうべき未来ぎのざに隣接する川沿いの用地が無地番地となっている。この用地を利活用する為に必要な測量調査等を実施。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他（ ）		
予算額・執行額【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	104,952	3,885			
		(b)予算現額	109,185	4,053			
		(c)増減額(b-a)	4,233	168			
		(d)前年度繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	109,185	4,053			
	B.執行済額		109,185	4,053			
	うち交付金充当額		87,347	3,242			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明	本事業は、7月5日付けの交付決定を受け、7月22日原案可決した補正予算(第3号)での予算計上となった。 当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	無地番地の用途廃止及び財産取得に必要な調査測量等を実施(作業項目数 5) ・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議	目標	()	()	()	()	
		実績		・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議			
	無地番地の用途廃止及び財産取得に必要な調査測量等を実施(作業項目数 5) ・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議	目標	(パークゴルフ場の整備(18ホール))	()	()	()	
		実績	パークゴルフ場の整備(18ホール)	・4級基準点測量 ・4級水準測量 ・現地測量 ・用地測量 ・公共用地境界確定協議			
達成状況説明	未来ぎのざに隣接する川沿いの無地番地用地の土地利用整備であり、計画どおりにこの用地を利活用する為に必要な測量及び調査等を実施することができた。また、調査により隣接地主との境界の確認及び構造物、埋設物等の状況確認、面積の確認ができ、土地取得に必要な情報を得ることができた。						

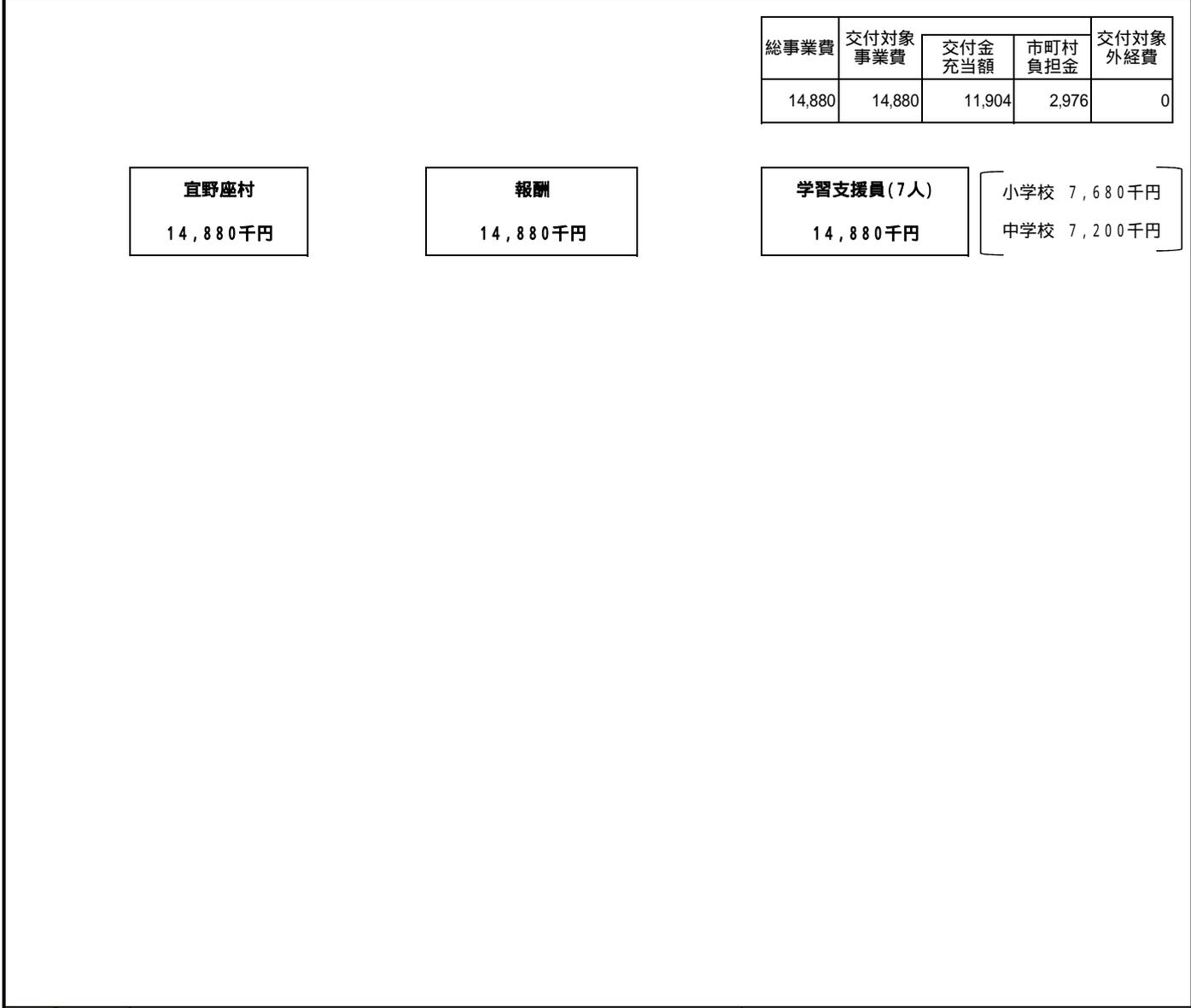
市町村名	宜野座村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	学力向上及び教育支援等事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 5 -	
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 - 3 -	
事業内容	小学校、中学校に学習支援員（習熟度別対応支援員）を配置し、児童・生徒一人一人へ確かな学力を身につけさせ、生きる力を育成するとともにTT（チームティーチング）による指導で判断力、思考力、想像力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図った。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他（ ）		
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,410	14,880			
		(b)予算現額	14,763	14,880			
		(c)増減額(b-a)	1,647	0			
		(d)前年度繰越額	-	0			
		A.計(b+d)	14,763	14,880			
	B.執行済額	14,763	14,880				
	うち交付金充当額	11,810	11,904				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率（％）(B/A)	100.0%	100.0%				
予算の状況の説明	・当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。						
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	小学校学習支援員配置数：4名 中学校学習支援員：3名	目標	(12名)	(7名)	()	()	
		実績	12名	7名			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	本年度目標の小学校学習支援員4名、中学校学習支援員3名を配置し担当教員との連携による授業を行うことにより、学習の基礎・基本の定着を図ることができた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
	小学校支援児童数（426名） 中学校支援生徒数（191名） 支援児童生徒合計（617名） 24年度は支援員配置数	目標	(0人)	(12名)	(617名)	()	(下記記載)
		実績		12名	623名		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	本年度目標の支援児童生徒623名（小学校支援児童数430名、中学校支援生徒数193名）に担当教員との連携により授業を行うことにより、学習の基礎・基本の定着を図ることができた。 平成25年度全国学力学習状況調査平均正答率 小学生 国語AB：58.1%（H23基準値：54.5%）、算数AB：65.2%（H23基準値：64.8%） 中学生 国語AB：57.9%（H23基準値：54.0%）、数学AB：36.3%（H23基準値：26.9%）					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	本年度は学習支援員7名を配置し、担当教員との連携による授業を行うことにより623名の児童生徒の支援を行うことができ、全体として下記のとおり全国学力学習調査平均正答率の数値により向上は見られる。しかし、下位層と上位層の開きが見られる。	学習支援員を下位層の児童生徒に重点を置いて配置し、支援することにより、基礎・基本の定着を図る。また、次年度以降は全国学力状況調査平均正答率の単年度目標を設定し取り組む。

今後の取り組み方針

学習支援員配置による学力向上の効果については、全国学力学習状況調査平均正答率の単年度目標数値を設定し、各年度の数値を比較検証し、事業の継続や見直し等について検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	-	支出先の選定方法は妥当か。	学習支援員配置の予算は、宜野座村学習支援員の報酬額により計上されている。支援員の配置人数についても、学校等のヒヤリングにより決定しており、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宜野座村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	幼稚園預かり保育事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 -	
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	子育てセーフティネットの充実 - 4	
事業内容	幼稚園において預かり保育を実施し、親子が健やかで安心して日常生活を送れるような支援を充実させる。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,975	9,200			
		(b)予算現額	4,471	7,400			
		(c)増減額(b-a)	3,504	1,800			
		(d)前年度繰越額	-	0			
	A.計(b+d)		4,471	7,400			
	B.執行済額		4,471	7,400			
	うち交付金充当額		3,576	5,920			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容はすべて実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	預かり保育担当配置数（4人）	目標	（ 4名 ）	（ 4名 ）	（ ）	（ ）	
		実績	4名	4名			
		目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	
		実績					
達成状況説明	本年度目標の預かり保育担当を4名配置し、預かり保育を実施し、親子が健やかで安心して日常生活を送れるよう支援した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（33年度）
	預かり保育受入園児数（51名） H24は預かり保育担当数 H33目標数値は受入園児延べ人数	目標	（ 0人 ）	（ 4名 ）	（ 51名 ）	（ ）	（ 550名 ）
		実績		4名	72名		
	[参考指標]	目標	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
		実績					
	進捗状況説明	本年度は預かり保育担当4名を配置し、村立3幼稚園において、目標の預かり保育受入児童数を上回る72名の園児の預かり保育を実施した。乳幼児の増加により、今後は預かり保育受入児童数の増加が見込まれる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本年度は、預かり保育担当4名を配置し、村立3幼稚園において園児72名の預かり保育を実施した。しかし、短期の預かり保育のニーズもあり、急な預かりの受入にも対応できるよう体制を整える必要がある。	今後は、父母のニーズ等を把握し、保育時間、配置人数等検証を行う。

今後の取り組み方針

預かり保育に対する利用者等の意見を反映させるよう、保育時間、配置人数等検証を行い、事業の見直し等を検討する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
7,400	7,400	5,920	1,480	0

宜野座村
7,400千円

賃金
7,400千円

預かり保育担当(4人)
7,400千円

松田幼稚園	1人
宜野座幼稚園	2人
漢那幼稚園	1人

資金の流 れ、費目 の評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	-	支出先の選定方法は妥当か。	預かり保育担当の配置は、3幼稚園で最小必要人数4名の配置で適正な規模となっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宜野座村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2 -	学校ICT機器整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 5 -	
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	H25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	自ら学ぶ意欲を育む教育の充実 - 3 -	
事業内容	村内小中学校のICT機器の整備拡充及びその活用により児童生徒の基礎学力の向上充実を図った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,809				
		(b)予算現額	13,440				
		(c)増減額(b-a)	1,369				
		(d)前年度繰越額	0				
		A.計(b+d)	13,440				
	B.執行済額	13,440					
	うち交付金充当額	10,752					
	次年度繰越額	0					
	執行率(%) (B/A)	100.0%					
予算の状況の説明	計画どおりの執行ができた。						
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ノートパソコン購入設置 21台 タッチパネル赤外線ユニット購入設置 12台 液晶テレビ購入設置 2台 電子黒板機能付きプロジェクター購入設置 6台 デジタル教科書購入(小3教科・中3教科)	目標	(100%)	()	()	()	
		実績	100%				
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	本年度目標の機器等すべてを購入設置し、その活用により、児童生徒の基礎学力の向上充実を図った。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（23年度）	25年度	26年度	27年度	目標値（年度）
	ノートパソコン購入設置 21台 タッチパネル赤外線ユニット購入設置 12台 液晶テレビ購入設置 2台 電子黒板機能付きプロジェクター購入設置 6台 デジタル教科書購入(小3教科・中3教科)	目標	(-)	(100%)	()	()	()
		実績		100%			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	本年度目標の機器等すべてを購入設置し、その活用により、児童生徒の基礎学力の向上充実を図った。今後は、機器を活用及び周辺機器の整備を進め、わかりや授業を実践することにより学力の向上を図る。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ICT機器を効果的に活用し、児童生徒の学力向上を図るため、わかりやすい授業の工夫等教職員の研修等を検討する。	村配置のIT指導員を活用し、教材の活用方法等教職員の研修等を実施し、わかりやすい授業を行うことにより、事業性との学力向上を図る。また、今回整備した機器と関連した、必要な機器の検討を行い整備を進める。

今後の取り組み方針

ICT機器を活用し、わかりやすい授業により児童生徒の学力向上を図るため、機器や教材の活用方法について教職員の研修等を実施する。また、必要機器について検討を行い整備を進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
13,440	13,440	10,752	2,688	0

宜野座村
13,440千円

備品購入費
13,440千円

コンピューターネットワーク株式会社
13,440千円

ノートパソコン購入設置 21台
タッチパネル赤外線ユニット購入設置 12台
液晶テレビ購入設置 2台
電子黒板機能付きプロジェクター購入設置 6台
デジタル教科書購入(小学校3教科、中学校3教科)

資金の流 れ、費 目 の 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○契約は指名競争入札により行っており妥当であった。 ○デジタル教科書等を活用し授業を行う機器のみ整備し、数量についても既存の機器等を調査し必要最小限にとどめた。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	有機の里宜野座村確立事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の魅力や優位性を生かした産業の振興 -1	
事業内容	エコビレッジ構想を推進するため、専門技術員による栽培指導を実施し、エコ農産物の有利販売促進を図る。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	7,802	13,382			
		(b)予算現額	5,406	12,974			
		(c)増減額(b-a)	2,396	408			
		(d)前年度繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		5,406	12,974			
	B.執行済額		5,406	12,974			
	うち交付金充当額		4,324	10,379			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初計画した事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて、適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(27年度)
	協議会・部会の開催:6回	目標	()	()	(協議会・部会6回)	()	()
		実績			協議会・部会6回		
	エコマーク製作	目標	()	()	(エコマーク製作)	()	()
		実績			エコマーク製作		
	エコマーク袋作成:10万枚	目標	()	()	(100,000枚)	()	()
		実績			110,700枚		
	エコマークシール作成:8万枚	目標	()	()	(80,000枚)	()	()
		実績			101,000枚		
農業技術営農指導員:2名	目標	(1名)	(1名)	(営農指導2名)	()	(2名)	
	実績		1名	営農指導2名			
販売戦略指導:1名	目標	(1名)	(1名)	(販売指導1名)	()	(2名)	
	実績		1名	販売指導1名			
達成状況説明	農業技術員による有機農法の栽培指導を行った。認証マークのエコファーマーの農産物を有利販売するため、量販店等との検討・調整を図った。農産物の安定供給及び安定生産並びに品質の向上に繋がる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	エコファーマーの認定数:3名	目標	()	()	(エコファーマー認定数3名)	()	()
		実績			エコファーマー認定数7名		
	エコマーク製作	目標	()	()	(エコマーク製作)	()	()
		実績			エコマーク製作		
	エコマーク袋作成:10万枚	目標	()	()	(100,000枚)	()	()
		実績			110,700枚		
	エコマークシール作成:8万枚	目標	()	()	(80,000枚)	()	()
		実績			101,000枚		
	農業技術営農指導員:2名	目標	(1名)	(1名)	(営農指導2名)	()	(2名)
実績			1名	営農指導2名			
販売戦略指導:1名	目標	(1名)	(1名)	(販売指導1名)	()	(2名)	
	実績		1名	販売指導1名			
[参考指標]	目標	()	()	()	()	()	
進捗状況説明	専門技術員の栽培指導により、認証マーク取得したエコファーマーが増加し目標を大幅に上待った。今後も、エコファーマを増やし「有機の里宜野座村」の確立。安定した農家所得を図っていく。						

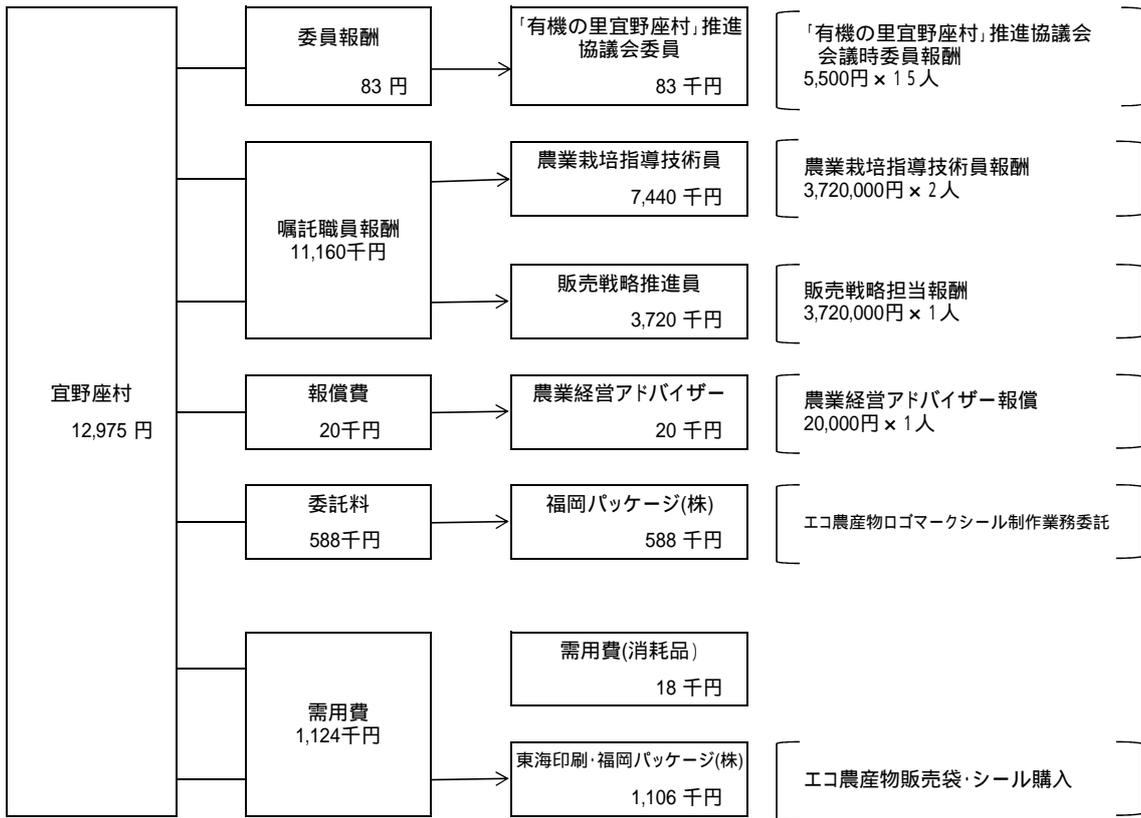
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村は、平成22年3月、「有機の里宜野座村」を宣言し、安心・安全なエコ農産物の生産・販売に取り組んだ。平成24年度、平成25年度とエコファーマー認定者を増加した。「安心・安全な農産物づくり」の技術向上に向け、土作りや土壌分析、各作物の営農指導、エコファーマー認証取得に向けての技術指導、販売先の拡大等を実施してきたが、安定した農産物の生産が課題となっている。	農業技術指導員の配置により、宜野座村独自の生産技術の確立のため、継続して農家への指導・助言を行うとともに、エコファーマー認証取得に向け技術指導を行う。更には、販売戦略担当職員の配置により、販売ルートの確保に取り組み、差別化販売することで農家所得向上を図る。

今後の取り組み方針

安定した農産物の生産を図るため、施設の修繕並びに災害に強い施設の改善を図るとともに、病害虫及び台風等災害対策を徹底し、農薬及び化学肥料に頼らない農業を確立していく。又、本土等の先進地を研修し、戦略品目、栽培技術等の調査研究を行い、本村農業への普及推進を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
12,975	12,975	10,379	2,596	



資金の流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	ロゴマークシール制作については仕様書に基づき見積を徴取し随意契約を締結したので妥当であったと考えられる。 人件費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき実施したので妥当であると考えられる。 費目・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3 -	宜野座村エコビレッジ推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄の魅力や優位性を生かした産業の振興 -1	
事業内容	エコビレッジ構想をするため、宜野座村エコビレッジ推進協議会の開催、宜野座村エコビレッジアドバイザーの設置等を行い、滞在型か日帰り型市民農園開設の検討を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a)当初予算額	1,295				
		(b)予算現額	671				
		(c)増減額(b-a)	624				
		(d)前年度繰越額	-				
		A.計(b+d)	671				
	B.執行済額		671				
	うち交付金充当額		537				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初計画した事業内容は推進協議会3回計画で2回開催。実績額に合わせ、最終補正で減額したため執行率100%となっている					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(27年度)
	宜野座村エコビレッジ推進協議会の開催	目標	()	(3回)	()	()	()
		実績		2回			
	先進地研修	目標	()	(1回)	()	()	()
		実績		1回			
達成状況説明	エコビレッジ構想をするため、宜野座村エコビレッジ推進協議会を開催し、先進地研修を実施し、滞在型・日帰り型市民農園開設に向けての検討を行った。業務内容の調整がつかず、2回の開催となったが先進地研修報告会を開催することで今後の課題等意見交換することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(27年度)
	宜野座村エコビレッジ推進協議会の開催	目標	()	(3回)	()	()	()
		実績		2回			
	先進地研修報告書の作成	目標	()	(1回)	()	()	()
		実績		1回			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	エコビレッジ構想をするため、宜野座村エコビレッジ推進協議会を2回開催し、先進地研修報告書を作成し研修内容の報告を行った。滞在型・日帰り型市民農園開設が本村において実施可能か検討会議を行ったが、次年度も継続審議し内容を取りまとめることとなった。						

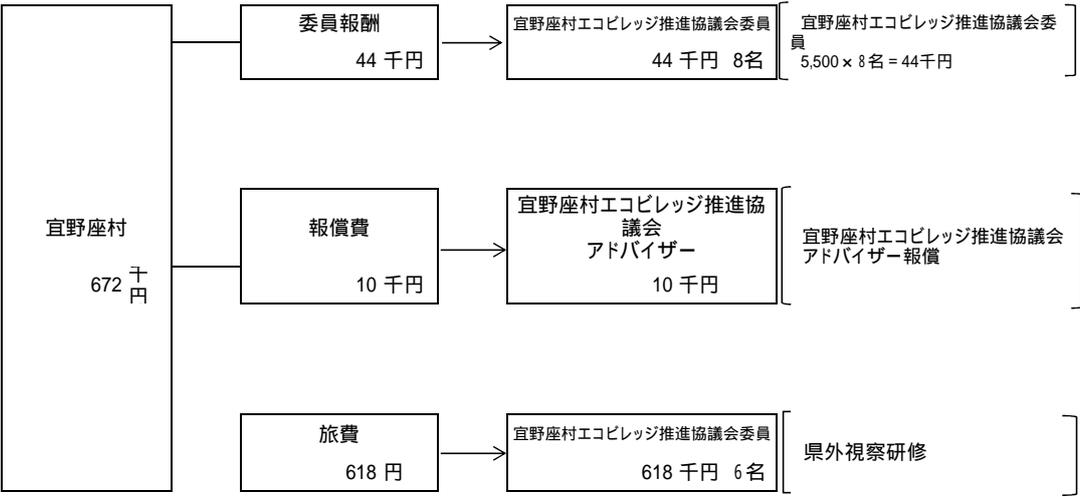
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本村には、集客交流促進を目的とした施設が地域内に存在するが、地域内外からの集客交流者数の増加や、地域内交流施設の活性化を通じた経済波及効果・雇用の発生・地内消費行動の促進、地元農家の育成・支援、地域外住民の移住促進等、地域内の賑わい・地域雇用の受け皿としての仕組み作りが課題となっている。	エコビレッジ構想を進めるため、宜野座村エコビレッジ推進協議会を開催し先進地研修を行って滞在型(クラインガルテン)・日帰り型市民農園の開設ができるか検討会議を行ったが結論にはいたらず、今後も県内の先進地等を視察し本村で開設可能か継続審議する。

今後の取り組み方針

継続して、宜野座村エコビレッジ推進協議会を開催し、本島内で実施している施設等の先進地研修を行い、運営状況等を把握検証図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
671	671	537	134	



資金の流れ、費目・用途の観点から検証・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	費目・用途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	宜野座村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	浮魚礁設置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (7) - イ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農山漁村の活性化の推進		
事業内容	本村の漁業は主にマグロやカツオ漁、モズク養殖を中心に漁業活動を行っている。それに加え水産物の新たな展開を推進する観点から、浮魚礁を設置し、ブルーツーリズムの受入機能及び地元水産物を扱う直売所等を備えた漁村漁民活性化施設を中心に、魚食普及と漁業経営の安定的向上を図る。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000				
		(b)予算現額	2,843				
		(c)増減額(b-a)	2,157				
		(d)前年度繰越額					
	A.計(b+d)		2,843				
	B.執行済額		2,843				
	うち交付金充当額		2,274				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		不要額が2,157千円発生しているが、入札残によるものであり、当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	浮魚礁2基の新規設置	目標	(2基)	()	()	()	
		実績	2基				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・魚食普及と漁業経営の安定的向上を目的に浮魚礁を2基設置したことで、パヤオ漁の漁獲量が増加した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	浮魚礁2基の新規設置	目標	()	(2基)	()	()	()
		実績		2基			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・パヤオ漁業の漁獲量向上がみられた事により、魚が集まってきていることがわかった。今後は、ブルーツーリズムの実施に向け関係機関と調整していく。					

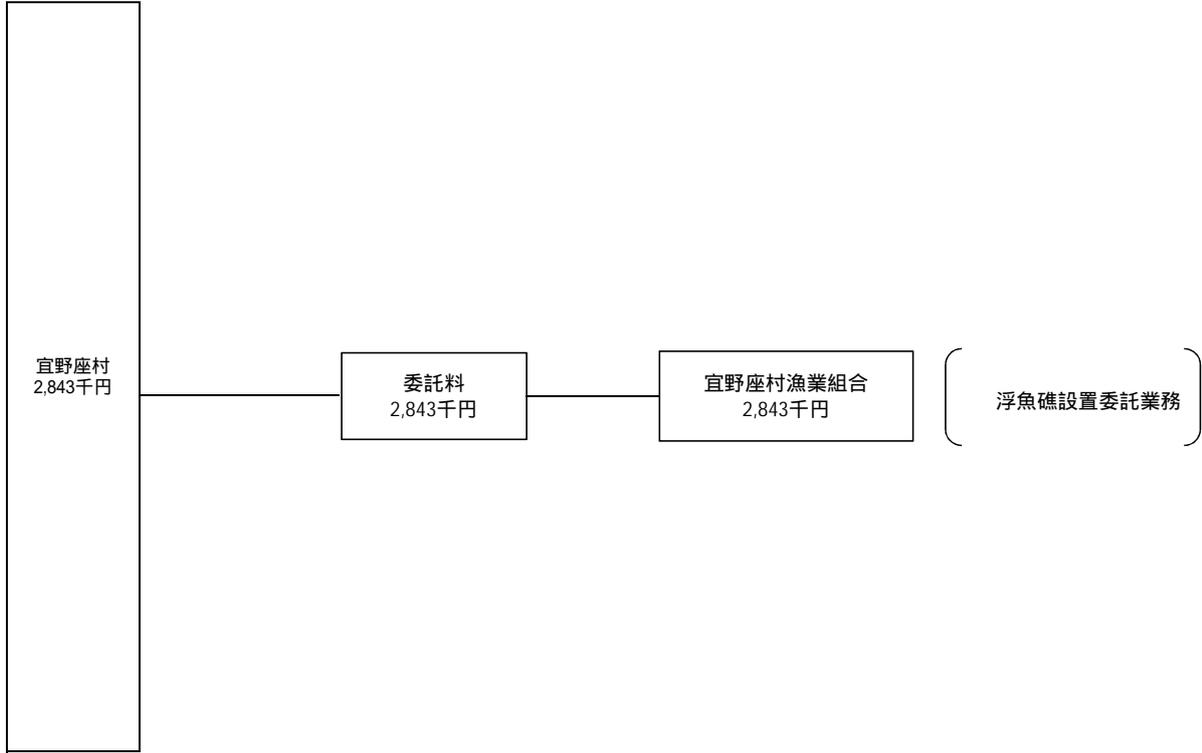
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・浮魚礁設置したが、ブルーーツーリズムの受入体制などの調整が出来なかった ・浮魚礁は設置してしばらくしないと効果が現れないため、今後も調査が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁獲量の調査を進めながら、ブルーーツーリズム受入に向けて漁協等関係機関と協議していく。 ・観光推進協議会などと連携し観光漁業の展開に向け協議していく。

今後の取り組み方針

浮魚礁を活用し漁業経営の安定的向上を図りながら、ブルーーツーリズム等の観光漁業への展開を関係機関と協議していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
2,843	2,843	2,274	569	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者については、3社に見積を依頼したところ、他2社に比べ当該物件が、品質、性能等、他のものと比較して問題がなく、かつ、時価を基準とした予定価格から勘案しても、著しく有利な価格で契約でき、更に実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	漁港機能強化車両購入事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章 - 2 - (7) - イ	
担当部課名	産業振興課	事業実施(予定)年度	平成25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	交流と共創による農山漁村の活性化の推進 -1	
事業内容	本村のモスク養殖は、北部圏域において沖縄県特産モスクの生産拠点として位置づけられている。フォークリフトを購入することにより荷揚げ作業時の効率化とともに生産性への意欲向上が図られ、漁獲量を増やすことにより漁業経営の安定的向上が図られる。						
実施方法	直接実施	委託	補助	負担	その他 ()		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,100				
		(b)予算現額	1,538				
		(c)増減額(b-a)	562				
		(d)前年度繰越額					
	A.計(b+d)		1,538				
	B.執行済額		1,538				
	うち交付金充当額		1,230				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		不要額が562千円発生しているが、入札残によるものであり、当初計画していた事業内容は全て実施した他、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	27年度	28年度	29年度	
	フォークリフト1台新規購入	目標	(1台)	()	()	()	
		実績	1台				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	フォークリフト1台新規導入した結果、荷揚げ作業効率が改善し、収穫作業時間が延びたことにより漁獲量を増やすことが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	フォークリフト1台新規購入	目標	()	(1台)	()	()	()
		実績		1台			
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	荷揚げ作業効率が向上したので、漁獲量のさらなる向上、安定に向け努めていく。					

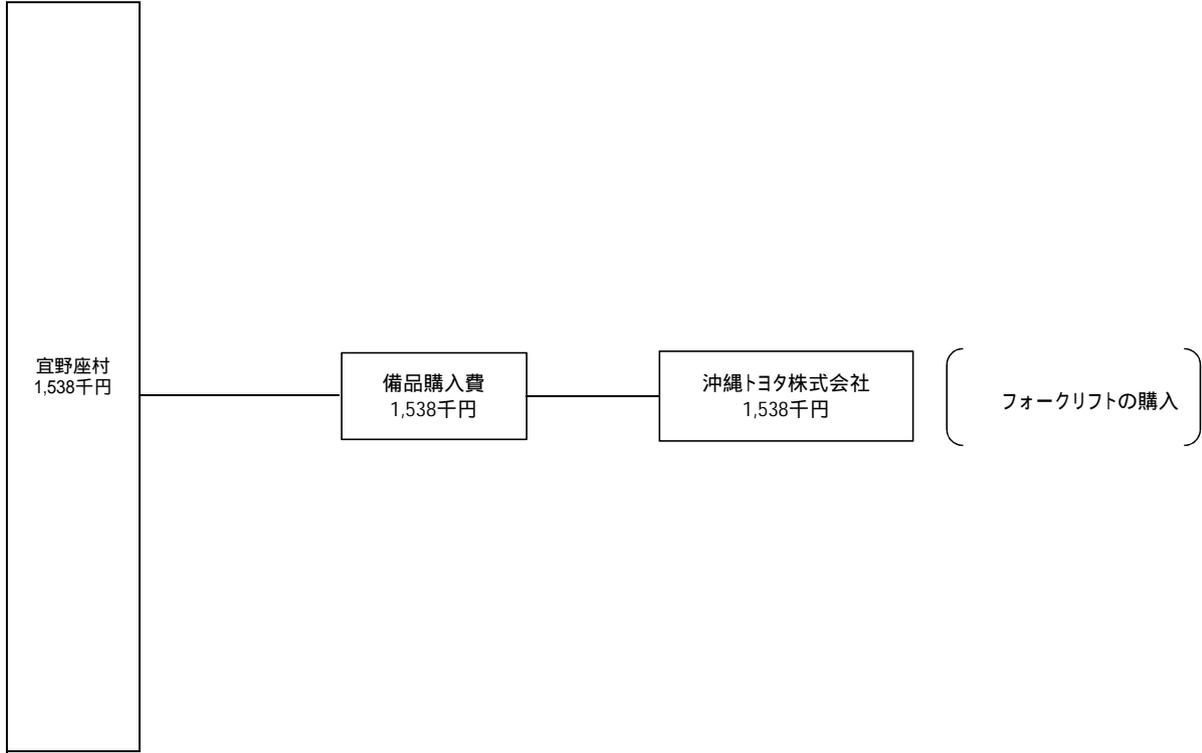
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・フォークリフト購入により荷揚げ作業効率が上がった報告を受けた。 ・運搬路の段差を無くすよう要望があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車両の機能を落とさないためにも、適切な維持管理を行い、運搬路の要望についても改善できるよう努める。

今後の取り組み方針

車両の機能を落とさないためにも、適切な維持管理を行い、運搬路の要望についても改善できるよう努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
1,538	1,538	1,230	308	0



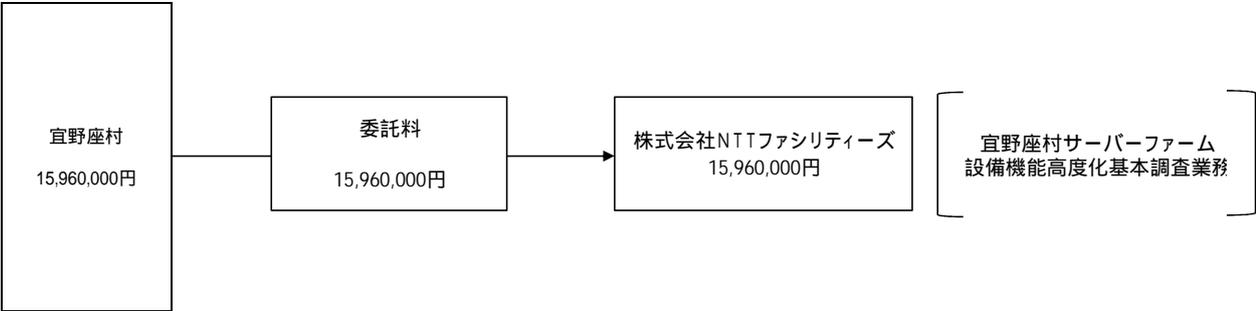
資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・予算規模に関しては、四社より見積を徴取し決定したので適正であると考えられる。 ・購入業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で指名競争入札にて決定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		宜野座村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4 -	サーバーファーム設備機能高度化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ア	
担当部課名	企画課	事業実施(予定)年度	平成25年度～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	情報通信関連産業の立地促進	
事業内容	平成14年に開所した宜野座村サーバーファームは開所して11年目を迎える。沖縄は地震も少なく、安定した電力供給ができることで県外企業からバックアップデータセンターの拠点として注目されているが、多様化するデータセンターのニーズに対応する為、特殊な施設であるデータセンター環境の基本調査、実施設計を行い、企業の業務支援、業務拡大を図るため、設備の機能強化を複数年に分けて実施する。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	52,290				
		(b)予算現額	15,960				
		(c)増減額(b-a)	36,330				
		(d)前年度繰越額	0				
		A.計(b+d)	15,960				
	B.執行済額		15,960				
	うち交付金充当額		12,768				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初、予算に計上されていない事業であったが、事業計画の変更によって事業化した事案となっており、予算現額については最終的に補正された為、執行率100%となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	データセンターの市場ニーズに応えるため、施設の機能高度化を効率かつ具体的に行うために、設備全体の基本調査業務を行い、5年間の設備機能高度化計画を策定する。		目標 (機能高度化計画策定)	()	()	()	
			実績	機能高度化計画策定			
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明	本事業にて、入居企業の事業支援に必要な機能高度化について、既存設備の状況や入居企業とのヒアリングを踏まえ、市場動向等の情報を組み入れながら今後5年間の計画策定を行うことが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	データセンターの市場ニーズに応えるため、施設の機能高度化を効率かつ具体的に行うために、設備全体の基本調査業務を行い、5年間の設備機能高度化計画を策定する。		目標	()	(計画策定)	()	()
			実績		計画策定済		
	[参考指標]		目標	()	(-)	()	()
			実績		-		
進捗状況説明	平成25年度事業にて、今後5年間の機能高度化計画を策定することにより、当該施設の効果的な機能高度化を選別し、実施することが可能となり、平成26年度より本格的な機械設備(空調・消火設備)、電源設備機能の高度化を中心に事業を実施していく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業により策定された計画案では、総合的な設備機能の高度化について、入居企業の意見や市場動向を踏まえて策定することが出来た。</p> <p>平成14年度当時最先端と称された設備も、11年目を向かえ旧式化している状況を外部の情報も踏まえて客観的に判断することが出来たものの、全体計画では20億円規模の機能高度化事業となる為、村の財政的な都合も考慮し、実情に即した機能整備、強化等について効果的に実施していく必要がある。</p>	<p>今回の基本調査では、電気設備関連、機械設備関連を重点的に調査しているが施設設備の国際的な基準(ティア)に基づきながら、現状旧式化している設備の高度化について、適切に事業導入が出来るよう計画的に進める必要があると考える。</p> <p>よって、データセンター機能における優先的な改善ポイントである空調設備、消火設備、電源(UPS)設備の機能高度化を重点的に実施することで、入居企業の事業支援に繋げていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>計画に基づきながら機能高度化の選定を適切に進めるために、空調設備の増強と消火設備の機能高度化、電源設備の強化について優先的に計画を進めるものとし、平成26年度はサーバー機器に対する室内環境の機能高度化を図る為、実施設計を行い、空調設備の増強を先行して実施する。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		交付金	市町村負担金	
15,960	15,960	12,768	3,192	0



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定については、指名(3社)競争入札により選定した。 予算規模については、見積を2社より徴取し設定した。 受益者は該当なし。 費目については委託費として計上しており、使途については本事業にて実施された基本調査費用に使用されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		宜野座村					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	宜野座村防災基盤強化整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ	
担当部課名	総務課	事業実施(予定)年度	平成25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化 - 10 - (2)	
事業内容	台風、地震や津波などの自然災害に想定される人為的災害等が起こった際に、村民の被災に対処・管理の強化を図るため、役場庁舎と各避難所へ保管庫の設置をして、災害用資機材及び生活必需品の購入をし、災害に強い安心安全なむらづくりを推進する事業である。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	62,205				
		(b)予算現額	57,720				
		(c)増減額(b-a)	4,485				
		(d)前年度繰越額					
		A.計(b+d)	57,720				
	B.執行済額		57,718				
	うち交付金充当額		46,174				
	次年度繰越額		0				
	執行率(%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初予算から事業の内容変更(倉庫・備品・消耗品の見直し)があり、予算減にいたった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	有事に備え、防災備蓄倉庫を7箇所設置	目標	(7箇所)	()	()	()	
		実績	6箇所				
	災害に備え、生活必需品の物品や、救助・救出の資機材をそろえる	目標	(災害時の生活必需品、資機材の購入)	()	()	()	
実績		災害時の生活必需品、資機材の購入					
達成状況説明	当初、防災備蓄倉庫の設置箇所は7箇所を予定していたが、各字に設置する6箇所の防災備蓄倉庫で十分に生活必需品や資機材を備蓄することが可能であると考え、6箇所の設置となった。防災備蓄倉庫は、沖縄の自然環境に適したもの(台風や塩害)を設置することができた。生活必需品に関しても、避難生活を支援するものがそろえることができた。また、資機材に関しても、救助・救出に役立つものや避難生活を支援できるものがそろえることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	有事に備え、防災備蓄倉庫を設置	目標	()	(7箇所)	()	()	()
		実績		6箇所			
	[参考指標] 災害に備え、生活必需品の物品や、救助・救出の資機材をそろえる	目標	()	(災害時の生活必需品、資機材の購入)	()	()	()
		実績		災害時の生活必需品、資機材の購入			
進捗状況説明	当初、防災備蓄倉庫の設置箇所は7箇所を予定していたが、各区に設置する6箇所の防災備蓄倉庫で十分に生活必需品や資機材を備蓄することが可能であると考え、各区の避難所6箇所への設置となった。防災備蓄倉庫は、沖縄の自然環境に適したもの(台風や塩害)を設置することができた。生活必需品に関しても、各区の人口20分の1の割合で3日間の食料・水等、避難生活を支援するものがそろえることができた。また、資機材に関しても、救助・救出に役立つものや避難生活を支援できるものがそろえることができた。今後は、資機材等を使った防災訓練を行い、有事に備えていきたい。						

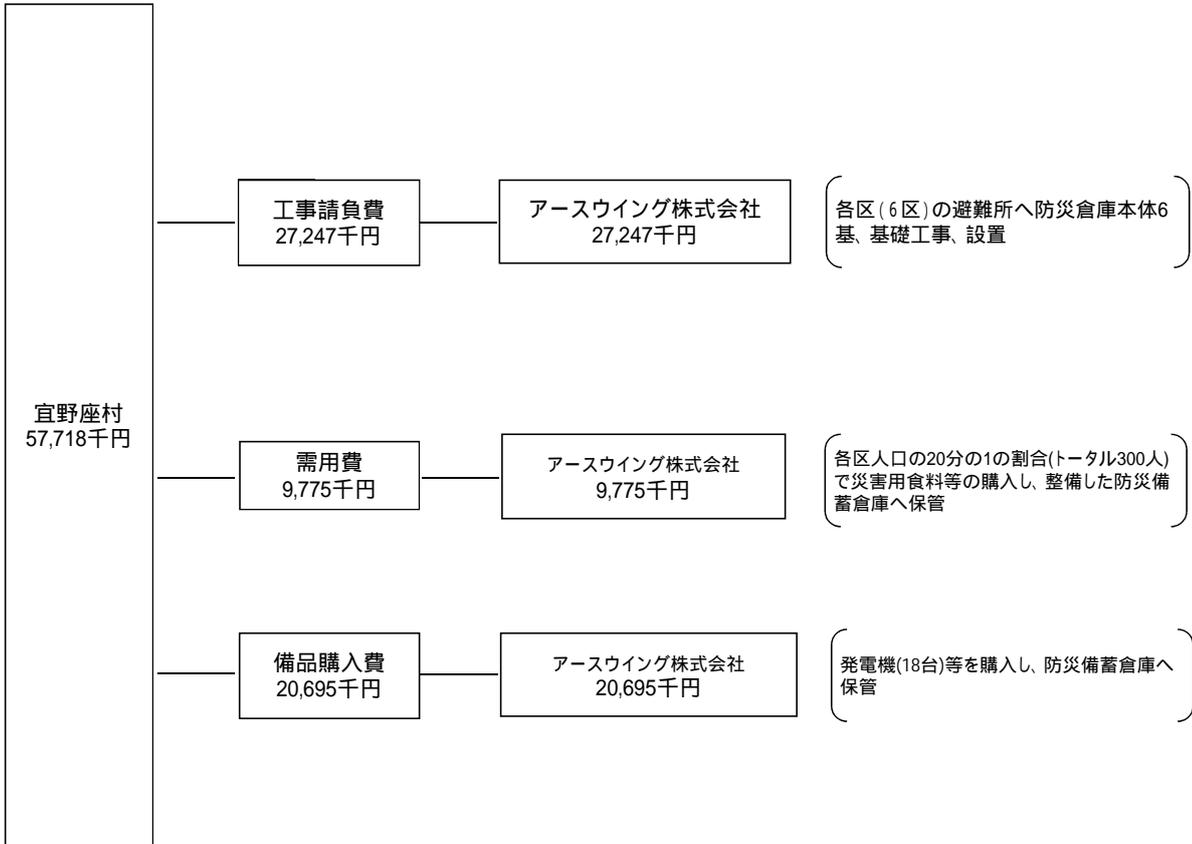
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	防災備蓄倉庫を設置し、必要最低限の生活必需品や資機材を整備することはできたが、その管理や、いざ災害が起こった際に、どのように配布したり、資機材をどのように扱うのか、避難場所の区長や職員への研修・勉強会が必要。 また、自主防災組織の立ち上げを推進し、災害に強い村づくりにする必要がある。	いざという時に備え、講演会や研修または勉強会を実施し、避難場所の運営や救助・救出のレベルアップを図る。

今後の取り組み方針

役場職員、区長等のみではなく、住民への講演会や勉強会を実施し、防災意識の高揚をはじめ、自助、共助、公助の関係性を高めてる。また、防災訓練を行い、災害に強い村づくりを推進していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
57,718	57,718	46,174	11,544	



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	契約は指名競争入札により行っており妥当であった。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		